

ケアマネ通信



第20号
2024
Mar.

あやせ介護支援専門員協会

綾瀬市は県央地区にあり、市内に駅がない！？という神奈川県の中でも稀有な土地柄ですが、ケアマネジャー同士や、行政・事業所の皆様とも連携しながら日々の業務に当たっています。あやせ介護支援専門員協会では、この度コロナ禍以来となる対面での新年会を開催し、久しぶりの交流の機会となりました。ケアマネ不足が叫ばれる昨今、今後もケアマネジャー同士の連携は一層大事になると思います。以前協会でケアマネジャー不足について意見交換をした際、“ケアマネジャーという仕事の魅力をもっと伝えよう”という意見が出ましたが、今回の新年会の中では、居宅・包括・施設といった垣根を超え、笑顔で談話している皆を見ていると、“人と人との繋がりを作れる”ことがケアマネジャーの大きな魅力なのかなと感じました。これからも“繋がり”を大切にする協会でありたいと思います。

あやせ介護支援専門員協会 佐藤 明

目次

第21回 神奈川県介護支援専門員研究大会	2	ケアマネリレーコラム	7
AIの進化を体験してみよう！	4	編集後記	7
委員会紹介（ケアマネジメント基礎研修部会）	5	インフォメーション	8
委員会紹介（災害支援委員会）	6		

第21回

神奈川県介護支援員専門員研究大会

令和6年2月17日(土)10:00～16:30、藤沢市民会館にて神奈川県介護支援専門員研究大会が、令和元年度以来となる現地開催されました。

今回、早稲田大学政治経済学術院教授、野口晴子先生による基調講演があり、医療経済学の観点から福祉業界を俯瞰した切り口で、介護を取り巻く環境と集計情報から見る介護支援専門員に係る現状を解説いただき、介護支援専門員の労働生産性の向上に向けて、労働生産性を「見える化」するには、どうしていくかを、わかりやすく講義していただきました。

ケアプラン作成の効率化・省略化、利用できるテクノロジー、仕事場の環境整備、就労意欲や、やりがい向上をさせる開発が重要であることを理解できました。

研究発表では、「特別養護老人ホームと地域のつながり、看護小規模多機能型居宅介護利用者の既存のつながりを活かしたケアマネジメント、地域包括支援センターの立場から居宅支援事業所のケアマネジャーとの連携課題、地域包括支援センター専門職の職業性ストレス構造、区分支給限度額のアンケート調査から見えてきたこと」の発表がありました。

パネルディスカッションでは「地域で支えあう土壌作り～つながる支援の輪～」をテーマに4氏がそれぞれの立場からの取り組みや今後の課題など、ディスカッションが展開されました。中でも、元々造園業で園芸店とペットショップを営んでいる方のこども食堂などの地域での活動は、まさに「支えあう地域の力」で素晴らしいと思いました。

広報出版副委員長 杉原



研究大会の感想

「支えあう地域の力～共にささえ つながる手と手～」をテーマに、研究発表や基調講演、パネルディスカッションが行われました。

「つながり」のテーマ通り、ケアマネジャーとご利用者様、ご利用者様と地域、ケアマネジャーと地域といった、関わり大切さを改めて実感する大会でした。「つながり」と相対する言葉に「孤立」や「孤独」があると思います。今回の研究発表や基調講演、パネルディスカッションにおける様々な場面で、皆様の「困っている人をつながりによって孤立させない」という思いの強さをとても感じました。

今回の大会では、ケアマネジャー同士もつながることの大切さも感じられました。田代氏(藤沢市明治地域包括支援センター)や須山氏(株式会社ケアネット ケアステーション幸)の研究発表や、野口先生の基調講演では、ケアマネジャーやご利用者様が置かれている状況がデータとして示されており、同じ仕事をしている仲間として互いに支えあい、アンケート等を通して様々な声をデータとして集め、野口先生の講演内での「政策によって人の命は変わる」という言葉にもあるように、行政等の政策決定の場へ届けるのもケアマネジャー同士の「つながり」の一つなのだと思います。

今回は130名を超える参加申し込みがあり、盛大のまま閉会しました。開催地である藤沢市の中学生の長岡怜海さんが描いてくださったポスターも大変好評でした！来年度は秦野市で開催予定です。今回生まれた「つながり」を大事にしながら、また次回も皆様との「つながり」がもっと広がる大会になるのではと、今から楽しみにしています。

広報出版委員長 佐藤

.....

当日の研究発表やパネルディスカッション、また一年間における運営委員の皆様との活動を通じ、あらためて藤沢の多職種、地域の皆様との「つながり」の強さを感じさせていただきました。ご参加いただいた皆様、運営スタッフの皆様、ありがとうございました。

研究大会運営委員長 岩本 朋子

AIの進化を体験してみよう！

『ケアマネジャーとして、高齢者や障害者の生活支援を行う上で、文章作成は欠かせないスキルです。

しかし、文章作成には時間や労力がかかりますし、書き方によっては相手に伝わらなかったり、誤解を招いたりする恐れがあります。

そこで、copilotというツールをご紹介します。

copilotは、人工知能が文章作成をサポートするツールです。

あなたが入力したキーワードや条件に基づいて、適切な文章を生成してくれます。

例えば、ケアプランの作成や報告書の執筆などにcopilotを使えば、効率的に高品質な文章を作成できます。

copilotは、文章の内容や構成だけでなく、文法や表現もチェックしてくれます。また、文章の長さやトーンも自由に調整できます。

copilotは、ケアマネジャーの仕事をよりスムーズにし、相手に伝わる文章作成のお手伝いをします。copilotを使ってみませんか？』

copilotは、Windowsのインターネットブラウザ、Microsoft Edgeを開き、画面右上の角にある青いマークをクリックすると使用できます。

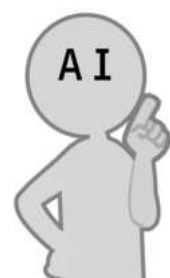
お察しの方もおられるかもしれませんが、この記事の『 』の間の文章はcopilotの文章作成機能で【ケアマネジャー向けにcopilotや文章作成の便利さを伝える記事の執筆】と入力ただけで作成されました。

「AIがケアプランを作ってくれる」こんな話題が出てから数年経ちましたが“実際AIってどんなことができるの？”と思われる方が多いのではないのでしょうか。

copilotでチャットや文章作成をお試しいただくと、AIの進化・作成する文章の正確さにきっと驚かれると思います。

しかし、AIにも間違いは起きますし、必ず推奨できるものでもありません。

便利なツールを適切に使うのも、最後に説明するのもケアマネジャーの仕事ということは忘れないようにしましょう！



広報出版委員（S）

委員会紹介

ケアマネジメント基礎研修部会 部会長 土田 陽子

皆さんは現場でのケアマネジメント業務をどこまで理解して、実践していますか？

私たち基礎研修部会では、ケアマネジメントプロセスの各項目を、講義とグループ演習を交え、実践方法を掘り下げながら、主に現場での実践に焦点を当て、理解を深め、自信を持って日常業務を実施いただくための研修を企画構築しています。

経験の浅い新人の方、実習担当や新人指導を担う中堅の方や管理を担う主任ケアマネジャーの方々まで、幅広く参加する事ができます。基礎的な実践方法の再確認、技術を要する説明力向上のトレーニングの場として、是非ご参加いただきたい内容です。施設ケアマネジャー向けの研修については年に1回、内容を凝縮して企画構築しています。

コロナ禍では、それ以前、集合で実施していた内容を、Zoomを活用して実施できる様に内容を再構築して実施して参りました。研修実施期間にも工夫をしておりまして、年度の前半に全ての回が終了するように企画しております。

参加してくださる方からの声として『いまさらこんな事聞きにくいな。』『事業所にケアマネジャーが1人だけだからつい自己流になってしまう。』『相談できる仲間が居ない。』『具体的な方法がわからない。』などがあり、様々な状況で必死に業務をなさっている方々の実情がわかります。そんな方々の不安が少しでも解消されて、ストレス発散の場にもなる様に、雑談や意見交換についても、研修時間が許す限り懇談の時間も盛り込んでおります。県内、様々な地域から参加して下さいますので、『担当地域を超えての情報交換もできて良かった！』と言うご意見もいただいております。

私たちの仕事は『これが正解！』という答えが出しにくい仕事であると思いますので、この研修の機会が、少しでも前向きな気持ちで業務に向き合っていただくための一助になればと思っています。

令和6年度については、これまでどおり、Zoomを使った研修に加えて集合の研修も企画しています。

皆さんに直接お会いできます事、心待ちにしております。

部会員一同、メラメラと情熱を燃やして企画構築して参りますので、是非たくさんの方のみなさまのご参加をお待ちしています。最後まで読んでくださってありがとうございます。

委員会紹介

災害支援委員会 委員長 小藪 基司



災害支援委員会（以下、委員会）の活動は、①神奈川 DWAT への協力、②災害支援マニュアルの普及の2つが主となっております。DWATとは Disaster Welfare Assistance Team の略で、日本語に訳すと災害派遣福祉チームとなります。東日本大震災などの大規模災害では、被災者の避難生活が課題となり、特に高齢者、障害者、子ども等の災害時要配慮者の避難生活が長期に渡った際の体調悪化や要介護状態の重度化、さらには災害関連死の発生が大きな課題として浮き彫りにされました。

これを受けて平成30年に国は、災害時の福祉支援に関するガイドラインを作成し、それに基づき神奈川県では令和2年度に神奈川 DWAT が誕生しました。神奈川県介護支援専門員協会（以下、協会）では、神奈川県と基本協定を締結し、協力団体として参画をしており、協会会員を DWAT へ送り出しています。神奈川 DWAT は令和6年の1月時点で派遣実績はありませんが、年間を通じて県が実施する研修や訓練に参加をして、実際に派遣になった場合に備えています。

大規模災害が発生した際の介護支援専門員の役割は、平時にも増して大きくなります。災害は自然環境の激変であり、環境因子の急激な変化ととらえられます。その変化は地域に住む全ての人に降りかかりますが、その影響は高齢者等の災害時要配慮者において顕著です。今まで元気であった高齢者がフレイル傾向になったり、フレイル傾向であった方の要介護化、要介護者の重度化が進行したりするリスクが急激に高まります。また、広域に渡って社会資源が障害を受けるために医療とケアが不足するために、そのマネジメントの必要性も増大します。つまり、大規模災害においてはケアマネジメントのニーズが増大するのです。

委員会で作成している災害支援マニュアルは、こういった大規模災害発災時にケアマネジメントを実施する際のガイドとなるものです。内容は委員会メンバーが東日本大震災の被災地においておこなった現地のケアマネジャーからのインタビューが基になっています。平時、発災直後、復旧などの段階毎に通常のケアマネジメントに加えて、求められる事項が記載されています。マニュアルは協会のホームページからダウンロードできます。また、委員会では、情勢に合わせて毎年、マニュアルの改訂を行っており、災害時の介護支援専門員のあり方を考え続けています。

令和6年は年明けから大きな災害に見舞われ、被災地域では相当な規模の支援が必要とされています。福祉支援についても現在進行形で様々な努力がされていますが、委員会としてもできる限りの協力を行っていきたいと考えています。委員会では毎年12月に DWAT へ参加して頂くための予備研修を行っています。秋頃にホームページにてご案内をいたしていますので、是非ご参加ください。

～神奈川県で働くケアマネジャーが日々思ったことなどを綴っていきます～

ケアマネリレーコラム

相模台第1地域包括支援センター 寺田 卓

現在、地域包括支援センターにて勤務しています。

以前は、居宅介護支援センターにてケアマネジャーとして勤務もしていました。

ここ最近で思う事、感じる事は「独居」「身寄りの無い方」「何処とも繋がりが無い、又は薄い方」がとて増えている、という事です。

特に地域包括支援センターで仕事をする中で、喫緊の課題と捉えています。

又、「居場所」が無い、あったとしてもそれを「知らない」、「移動手段が無い」等の課題もあると思っています。

世の中、便利になった反面、それに付いて来られない人、様々な理由で求めてい

ても出来ない人、がいる。私たちケアマネジャーとしても、地域資源を知り、そこに必要な人を繋げる事が求められている、と思っています。

担当の利用者さんやご家族の支援は勿論ですが、例えば、その方の隣の家に住んでいる、ちょっと気になる独居の人・・・を何気なく見守り、必要があれば包括等に繋ぐ等、柔軟な考え、動きが今後のケアマネジャーには必要なのかとも思います。

誰もが住みやすい地域を作っていく。様々な団体、職種が連携する事が重要です。その中に勿論ケアマネジャーがいる事、声を大にして言いたい今日この頃です。

編集後記

テレビ報道を見て、「低体温症」への注意との言葉が目につけた。私が担当している山間地区に一人で生活をされている85歳の女性を数年前に年末より、少し体の動きが悪くなり、1月7日に緊急搬送をした。診断名は「偶発性低体温症」でした。1カ月程度の入院で回復し、その後ショートステイを利用し、3月半ばに自宅に戻りました。又翌年も同様な症状で1月6日に緊急搬送され入院し、前年と同じ対応で自宅に戻りました。今年は、息子さんと相談し、

8月にAI搭載24時間全自動エアコンに買い替え、見守り体制を強化し対応をして、いまのところ、入院せずに過ごすことができています。

灯油・電気ストーブは、火事の心配があります。安心して夜中に暖を取る方法、安価な物は、電気毛布です。脱水の心配はありますが まずは暖かくしておやすみなさい。

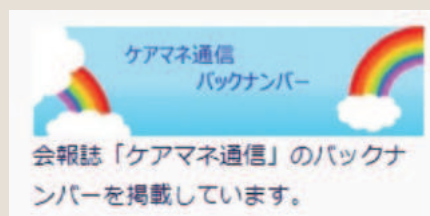
広報出版委員 前田

■令和6年能登半島地震により被災された皆さまおよび関係者の方々へ

令和6年1月1日の能登半島地震で、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。また被災地での救助活動・復旧作業に従事されている方に深く敬意を表します。皆様が通常の生活に戻れますよう、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

■ケアマネ通信 アンケートご協力のお願い

今後のケアマネ通信がより良いものになるよう、アンケートを実施しております。当協会ホームページ「ケアマネの森」のトップページ「ケアマネ通信バックナンバー」より、アンケート（Google フォーム）にご協力ください。
<https://www.care-manager.or.jp/iinkai/kouho.html>



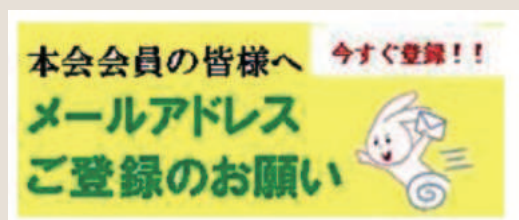
お手持ちのスマートフォンからも、ご回答いただけます。



会員の皆さまからのご意見・ご要望をお待ちしています。

■メールアドレス登録のお願い

会員の皆様へ、当協会主催研修会等の情報をメールでご案内しています。メールアドレスの登録がお済みでない方は、当協会ホームページ「ケアマネの森」のトップページ「メールアドレスご登録のお願い」より、ご登録をお願い致します。メールアドレスを変更したい方も、こちらから変更をおこなってください。



Contact

一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会 事務局
〒231-0023
横浜市中区山下町 23 番地 日土地山下町ビル 9 階
TEL 045-671-0284 FAX 045-671-0287
E-mail jimu@care-manager.or.jp
H P <https://www.care-manager.or.jp/>

◎編集 / 発行
一般社団法人
神奈川県介護支援専門員協会
広報・出版委員長 佐藤 明



Facebook
はこちら↑



ホームページ
ユーザーはこちら↑